



会員の声

名水探訪 立山・室堂方面

鈴木 康裕

9月9日に実施された名水探訪の行先は、立山室堂、立山町、富山市方面でした。室堂では、“立山玉殿の湧水”。立山町では、地鉄立山駅前にある“熊王の水”。富山市栗巣野にある“龍神の湧水”。また、自然解説員による、みくりが池周辺の散策もありました。

さて、話が変わりますが、旧富山市民の水道水源は、常願寺川から来ています。その常願寺川の水は、有峰湖から約60%、祐延湖から約30%、真川・称名川水系から約10%の割合で来ています。これは、有峰湖からの水の水質に支配されているといっても過言ではありません。旧富山市民の水瓶といわれるゆえんです。幸い、有峰湖からの水の水質は、昔から今も良好な水質です。

有峰の森林は、ブナとミズナラが主体となった原生林で保水力に優れています。この豊かな原生林に降った雨や雪が時間をかけて有峰湖に溜まることで、ミネラル分が豊富な水となるのです。美味しい水の原点がここに 있습니다。

注)旧富山市とは、平成17年4月1日に行われた自治体の「平成の大合併」前の富山市を指す。

久しぶりの参加で心がホッ

上埜眞知子

名水を守る会に入ったのは、同じ職場のNさんに誘われたからでした。入会直後からNさんと一緒に県内の名水はほぼ回ったのですが、その後Nさんと職場が別になったこともあり、調整が難しくなって、この会から足が遠のいていました。

今年の名水を守る会からのお知らせを見て、びっくり。「エッ！会員でなくても参加できるんだ！」早速、夫に話したら、二つ返事で「ウン、行こう。どこにする？」そういうわけで、9月30日に「細入・八尾方面ガット出の水・殿様清水等」の名水探訪に夫婦で参加。名水をたくさん味わい、「ますのすしミュージアム」での昼食も美味しくいただき、楽しい一日でした。久しぶりの私を温かく迎えてくださり、ありがとうございました。

会員以外でも参加できるというこの方針、これからも続けてほしいです。「名水を守る会」の輪が広がると思います。



名水探訪の感想

加藤 美穂

今年度から、入会させていただきました。県内外の名水を何か所も巡り、その地の名水を味わい、データを取り、水場の清掃をすることを通して、水のちがいがわかりました。名水が、嬉しそうにキラキラと湧き出してくるのを感じました。水に関する施設を訪れた時には、時の流れの中で、水を恵にするのも、災いにするのも、人の行いだということを知り、これからもっと、水を大切にしなければならぬと、つくづく思いました。途中で立ち寄る道の駅のご当地ソフトを味わうのも、楽しみです。来年も、色々な名水に会員の皆様と一緒に会いに行くことを心待ちにしています。これからも、よろしくお願ひします。

・ 展示発表 ・

10月27日28日
「ウイング・ウイング高岡祭」

硬度表・名水マップ・団体紹介のパネル3枚を展示し当会の活動を紹介しました。

コラム

雨模様・雪模様

理事長 青木 正樹

一年も締めくくりの時期になりました。

今年もいろいろなことがありテレビなどでは最近の話題・ワードなどが紹介されています。今年発表された文化庁の国語統計調査で「雨模様」についての認識調査項目がありました。2022年度の調査を今年の4月公表したもののなのですが、この「雨模様」の意味について、選択項目①は雨が降りそうな様子 ②は雨が降ったり止んだりしている様子 ③は①と②の両方 ④は①と②と全く違う意味 などの。回答比率は①が37.1%、②が49.4%でした。

本来の意味は①の雨が今にも降りそうな空ということなのですが、小雨模様と捉えている人が多い状況になっていますね。「雪模様」も同じく雪が降りそうな雲行きであり、降っている状態を表す言葉ではないとのこと。

時代の流れとともに本来の意味が忘れ去られ新しい解釈がされるようになってきています。このように言葉の意味は時代とともに変遷していますが、私たちが活動している「湧水の存在と歴史」は変わらずに後世に残していきたいものです。